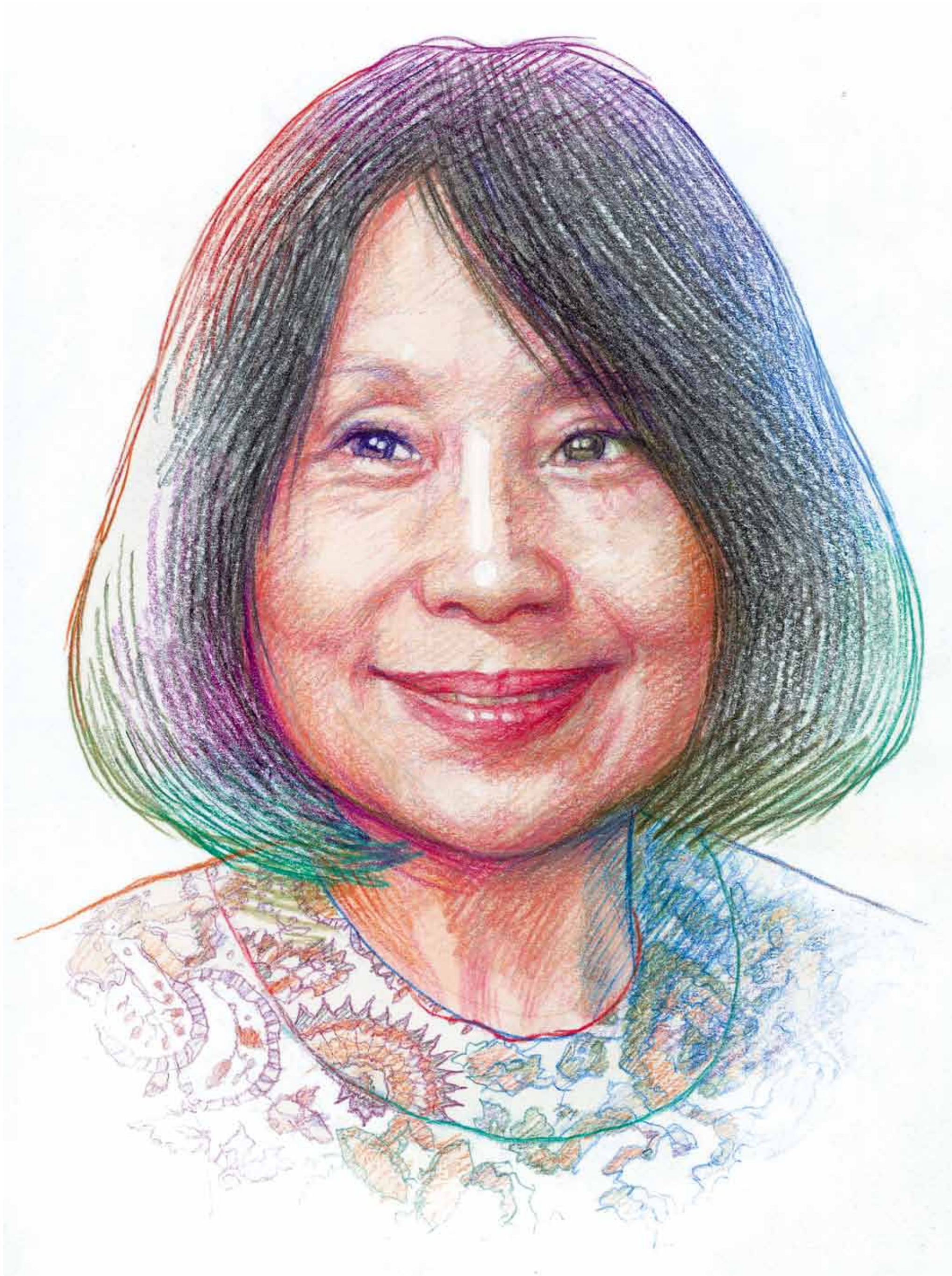


風土と人びとの心を描く

いしむれみちこ

石牟礼道子

Ishimure
Michiko



昭和2年(1927)～平成30年(2018)

あまくさ
天草に生まれ、みなまた
水俣に育つ

小説家、歌人

十代のころから文学を志し、歌誌『南風』^{なんふう}に所属、谷川雁主宰^{たにがわ がんしゅ さい}の「サークル村」に参加した。昭和40年(1965)に水俣病に題材を取った小説「海と空のあいだに」を雑誌『熊本風土記』^{ふどき}に連載、のち『苦海浄土』^{くがいじょうど}として出版された。石牟礼作品は近代化の中で失われた自然と庶民^{しょみん}を描いた鎮魂^{ちんこん}の文学として高く評価されている。代表作に『天の魚』『神々の村』『椿の海の記』ほか多数。